予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 ビエンナーレ等イベント開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 事務局教務課 電話番号：0584-75-6600(内 8223)

[E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp](mailto:c21905@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 6,755 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	6,755	0	0	0	0	0	3,755	0	3,000
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

本学が取り組むメディアアートを中心とした様々なアートの展示や、各種パフォーマンスを実施するアートイベントをビエンナーレ形式(2年に1回)で開催している。

最新のアートに触れる機会を提供する恒例イベントとして、県民、大垣市民に定着している。

(2) 事業内容

本学のアート領域を象徴したイベント「岐阜おおがきビエンナーレ」と、ものづくりを象徴した「Make」イベントを、本学の持つ多様性を示すイベントであり、この2大イベントを隔年で交互に開催することで、メディア文化と産業分野で最先端を走り続けるIAMASを県内外へ強くPRする。

特に、IAMASのイノベーションを支えるアートの側面を内外にPRすることで、新産業の育成につなげていくことが必要である。

○岐阜おおがきビエンナーレの開催

- ・ 時期：令和3年12月頃（4～6日間程度を予定）
- ・ 場所：ソフトピアジャパンセンタービル及び本学キャンパス
- ・ 概要：メディアアートや現代アートの作品展示をはじめ、シンポジウムやトークイベント、ライブ、ワークショップの実施等を含めたアートイベントを開催する。招待アーティストとともに本学のアート教員による作品展示も実施する。
新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン開催を検討する。

（3）県負担・補助率の考え方

民間助成の活用を予定。
大垣市から一部助成あり

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	2,200	アーティスト謝礼、スタッフ謝礼
需用費	40	消耗品費
役務費	147	来場者保険、郵送料
委託料	3,560	イベント運営、施設設営委託
その他	808	会場使用料等
合計	6,755	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）後年度の財政負担

隔年開催であるアートイベント「岐阜おおがきビエンナーレ」と、ものづくりイベント「Maker Faire」を毎年交互に開催していく。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業
☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 アートイベント「岐阜おおがきビエンナーレ」の開催により、IAMASの研究や教育成果など先進的なアートへの取り組みを広くPRする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
来場者数（人）	1,000 (H27)	1,300 (H29)	(H)	3,200 (R1)	3,500 (R3)	91%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前回（令和元年度）の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 ソフトピアジャパン・センタービルを会場に「メディア技術がもたらす公共圏」をテーマに、新進気鋭の若手アーティストや本学教員等による作品展示やシンポジウムを開催した。
 併せて、岐阜クリエイション工房事業の作品展示及び講評・トークイベントを併催した。

（前回（令和元年度）の成果）

・前回の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 岐阜県内、大垣市内からの来場者をはじめ、県内外から4日間で延べ約3,200人の来場者（Web中継視聴者数を含む。）を集め好評を得たことで、本学及び大垣市を広くPRすることができた。
 ここまで8回開催の実績により、大垣市における恒例イベントとして定着している。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市におけるアートイベントとして、隔年で開催されるものづくりイベント「Ogaki Mini Maker Faire」と同様、県民、大垣市民に親しまれている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市の恒例のアートイベントとしては、集客力を誇るイベントであり、本学の取り組みや岐阜県・大垣市の芸術等を広く県内外にPRしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助事業や民間助成を活用するとともに、本学内の人材を含む資源を有効活用することで、県費を節約した開催を心掛けている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 愛知トリエンナーレ等と比較すると、規模や内容等で大きな差があることから、イベント規模に見合う予算の確保が必要である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ものづくりイベントである「Ogaki Mini Maker Faire」とアートイベントである「ビエンナーレ」を隔年で開催することで、本学の魅力を広くPRしていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	岐阜クリエーション工房事業 【情報科学芸術大学院大学】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	参加者の増加、特に高校生等の若者の参加